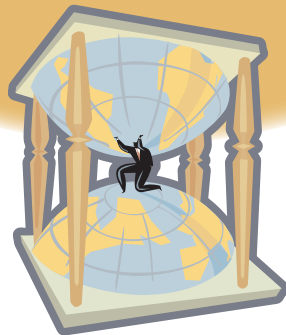


[小特集]

# 情報処理で 社会を守る

*To Maintain the Order of the Social Infrastructure by Information Technology*



1. 社会情報インフラの安全と信頼
2. 東証次世代システムの取り組みについて  
—次世代システム開発を通じた我が国IT分野への要望—
3. 国内物流と海外物流における情報システムの  
安全対策事例紹介  
～RFIDなど新技術によるモノと情報の結びつけでの要望～
4. 航空運送事業における情報システムの重要性和  
システムが担うべきディペンダビリティについて
5. 列車の運行から改札までの鉄道システムの事例

No.0



## 編集にあたって

土井美和子 (株)東芝

情報システムは社会インフラとして我々の生活を支えています。しかし、目に見えないため、その恩恵がなかなか分かりにくいものです。しかし、航空機、鉄道、通信の情報システムにおいて、ひとたび事故が起こると、その事故が与える影響の大きさは多大であり、やっとそのありがたみが分かるという次第です。

翻って考えてみると、以上のようなライフラインと化している情報システムの実態を知っているのは、そのシステム開発に携わることの一部の技術者であります。さらに、その技術者もシステム開発に携わっているだけで、実際に情報システムを運用しているユーザ企業とは、発注者と受注者という関係にあり、利害関係のない平場で情報交換を行える立場にはないと推察します。研究者はなおのこと、情報システムの実態に触れたり、それを運用しているユーザ企業の方々と情報交換する機会はないのではないのでしょうか？

ライフライン化した情報システムをさらに進化させていくために、研究者も技術者も顧客が抱える真のニーズを知ることが重要と考え、今回の小特集を企画いたしました。

学術の世界からは、東京大学の坂井修一教授に、「社会情報インフラの安全と信頼」と題して、研究者の考える情報ディペンダビリティへの取り組みを紹介していただきました。政府や学協会で数多くの取り組みがなされていますが、指摘されているように、まだ統合的な活動に至っていないのは残念です。

金融分野からは、東京証券取引所の鈴木義伯氏に「東証次世代システムの取り組みについて」紹介いただきま

した。外国人の取引が60%を占めるというグローバル化の中で、10m秒以下での取引の高速化、ファイブナイン(99.999%)での信頼性、分間ピーク件数の2倍のキャパシティへの短期間での拡張性など次世代売買システムを明らかにしていただきました。

物流分野からは、日本通運(株)の佐野弘明氏から「国内物流と海外物流における情報システムの安全対策事例紹介」と題して、ネットワークやデータセンタへの対策を紹介いただきました。国内でのバックアップセンタのコスト高が安全対策上の課題になっていると指摘いただきました。

航空機分野からは、全日本空輸(株)の岡田圭介氏に「航空運送事業における情報システムの重要性とシステムが担うべきディペンダビリティについて」を執筆いただきました。航空機と同様に情報システムも事故のあることを前提として施策を施すべきと指摘いただいています。

鉄道分野からは東日本旅客鉄道(株)の松本雅行氏に「列車の運行から改札までの鉄道システムの事例」と題して、輸送管理、列車制御やSuica導入まで幅広く紹介いただきました。機能の改修・追加・取り換えとそれに伴うテストなど現場の切実な問題に対する研究不足が指摘されています。

今回の小特集が契機となり、情報処理学会という場において、ユーザ企業と研究者や技術者との対話が活性化し、ライフライン化した情報システムの強化に発展することを期待しています。

最後に、情報システムにおける事故事例など忌憚なくご紹介いただいた執筆者の皆様に深く感謝いたします。

(平成20年3月7日)